

令和 6 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立 常 陽 中 学 校

令和6年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

- ①生徒が主体的に学ぶ授業作りに努める。 ②規範意識の醸成と授業規律の遵守に努める。
- ③家庭学習の充実・自学自習の習慣化に努める。 ④生徒会活動等の充実により、リーダーの育成に努める。

学校評価の観点

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び縦のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3.5	3
取組	成果	課題と改善策	
・校内の研究授業を行い、授業後にはグループワークによる研究協議に取り組むなど授業改善に努めた。 ・尼崎市教育委員会作成のハンドブック「よりよい授業をめざして」(令和5年4月)の活用を進めた。 ・全教員が、単元を見通した「評価計画シート」を作成し、教員どうしが授業をお互いに参観し、意見を交流する「授業互観期間」を実施した。 ・自主学習ノートへの取組によって、家庭学習の充実を図るとともに、自学自習の習慣化に努めた。 ・特別支援コーディネーターを中心に月1回の特別支援教育委員会を実施し、生徒についての情報交換を行うとともに、支援方法を検討した。 ・保健体育科の授業に持久走、リズムジャンプを導入し、体力の向上に取り組んだ。 ・授業でのICT活用について、授業での効果的なICT活用の推進を図った。	・校内研究授業や授業互観期間を通して、教員が自身の授業を見直し、授業力の向上につなげることができた。 ・ハンドブック「よりよい授業をめざして」の活用によって、教員の授業改善への意識が高まった。 ・自主学習ノートへの取組によって、生徒の家庭学習に対する意識が高まった。 ・生徒一人一人を大切に、きめ細やかな指導を実践することができた。 ・新体力テストの結果から、持久力が向上した。	・引き続き、ハンドブック「よりよい授業をめざして」を活用した授業改善に努める。 ・あまっ子ステップアップ調査の結果を分析することで、教員の指導方法を改善し、さらなる授業力の向上を図る必要がある。 ・自主学習ノートへの取組を工夫改善して、家庭学習の習慣化を目指した取組を、さらに進める必要がある。 ・運動する生徒と運動しない生徒の二極化が進んでいる現状をふまえ、保健体育科の授業や部活動、体育的行事を通して、運動する習慣を身につけさせる必要がある。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3.5	3
取組	成果	課題と改善策	
・「自ら進んであいさつのできる生徒」の育成を目指し、様々な場面であいさつの徹底に取り組んだ。 ・「時を守り、場を清め、礼を正す」を生徒努力目標とし、生徒の意識を高め、礼節を身につけた生徒集団を目指した。 ・毎学期、教育相談を実施し、生徒の内面理解に努めるとともに、教員が情報交換を密に行い、いじめに対する態度を向上させることに取り組んだ。 ・毎学期、アセス(学校適応感尺度)アンケートを行い、誰もが過ごしやすい学校の環境づくりに努めた。 ・職業選択や進路選択などのキャリア教育について、講師を招聘して講演会を実施した。	・様々な場面で、心のこもったあいさつのできる生徒が増えてきた。 ・学校生活の中で、生徒努力目標を意識した生活習慣が身につけてきている。 ・日々の清掃活動で、積極的に清掃に取り組む生徒が増えた。 ・教員が丁寧な指導を心がけ、生徒の内面に寄り添うことで、いじめの早期発見・早期対応につなげることができた。 ・アセスアンケートの分析結果を学校全体で共有するとともに、組織として対応を協議し、誰もが過ごしやすい環境づくりを推進することができた。	・教員から積極的にあいさつを行うなど、生徒との信頼関係をさらに深めることが必要である。 ・清掃などにおいても、教員が生徒とともに汗を流して活動に取り組むことが必要である。 ・いじめに対する教員の態度をさらに高め、引き続き、組織的に対応する体制を強化していく必要がある。 ・生徒とともに将来の夢について語り合うなど、生徒に寄り添った教育活動を検討する必要がある。 ・1年生でのキャリア教育講演会、2年生でのトライやる・ウィーク、3年生での進路学習と、3年間を見通した指導体制を、さらに工夫改善していく必要がある。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		4	4
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・尼崎市教育委員会事務局の指導主事が学校訪問される機会には、積極的に指導助言をいただき、研究推進の活性化を図った。 ・研究推進体制として、全教員が「総務チーム」「学力向上チーム」「小中連携チーム」のいずれかに所属し、全教員が主体性をもって研究に取り組んだ。 ・全校生徒と保護者や地域の方々が、一緒に地域の清掃活動を行う「ふれあい清掃」を、年間に2回実施した。 ・定時退勤日を週に2日設定することで、退勤しやすい雰囲気をつくり、定時に退勤できるような業務改善にも取り組んだ。 ・武庫川コスモス園の種蒔きに、生徒会執行部有志の生徒が参加するなど、地域との協働活動に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまっ子ステップアップ調査や3年生対象の尼崎市学力調査の結果から、学力が向上していることが実感できた。今後も、結果を有効に活用し、生徒の実態を分析するとともに、教員の指導法を振り返り、授業改善につなげることができた。 ・研究推進や授業改善にあたって、必要に応じて指導主事の指導助言をいただくことができた。 ・定時退勤への意識が高まることで、教員の業務改善に対する意識も変わってきている。 ・地域や保護者の方々に見守り支えていただくことで、生徒にも積極的に地域貢献する意識が芽生えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が、生徒にとって魅力のある授業づくりに、さらに取り組む必要がある。 ・定時退勤への意識をさらに高め、教員の業務改善への意識改革を推進していく必要がある。 ・小学校では電子黒板などを効果的に活用した授業を行っていることから、ICTの効果的な活用について、小中連携を深めていきたい。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		4	4
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・AEDの使用方法や心肺蘇生法などの救急救命講習を、保健体育科の授業を通して指導した。 ・教員の救急救命講習を行った。 ・登下校の安全確保のため、定期的に生徒の登校状況を把握し、朝礼等の機会をとらえて生徒への注意喚起に取り組んだ。 ・火災の発生や自然災害(地震・津波)を想定し、避難訓練に取り組んだ。昨年度から、行事予定表に「避難訓練」と記さないなど、予告なしの訓練に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急救命に関して、生徒の意識を高めることができた。また、基本的な技能も身につけさせることができた。 ・阪神淡路大震災で被災した経験をもつ方々からの話を通して、自然災害を「自分のこと」として認識し、危機管理に対する意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練が、より実践的な訓練となるよう、実施方法の工夫が必要である。 ・生徒会執行部が中心になるなどして、生徒自らが、自身の安全を確保するための自主的な取組を行ったり、安全に対する意識をさらに高めるような取組を行ったりする必要がある。 ・教員のシミュレーション研修も、定期的実施する必要がある。 	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		4	4
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業を行い、教員が活発に意見を交流するなどして、積極的に授業改善に取り組んだ。 ・生徒の特性に応じたきめ細かな指導により、規範意識のさらなる向上に取り組んだ。 ・全教員で、授業規律についての共通理解を図った。 ・自主学習ノートを活用し、家庭学習の充実と自学自習の習慣化に取り組んだ。 ・定期テストの間違い直しや授業の振り返りに、積極的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぼうとする姿勢が見られる生徒が増えてきた。 ・規範意識の醸成と授業規律の遵守により、落ち着いた学習態度と学習環境を整えることができた。 ・自ら進んで課題を提出できる生徒が増えてきた。 ・意欲的に自主学習ノートに取り組む生徒が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで継続して取り組んできた「授業づくり3つの視点」を意識した授業改善に、さらに積極的に取り組む必要がある。 ・自主学習ノートだけでなく、家庭学習の充実と自学自習の習慣化につながる手立てが必要である。 	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		4	3.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業改善に、全教員で取り組んだ。 ・発達に特性が見られる生徒に対して、全教員の共通理解のもとで、指導に取り組んだ。 ・授業でのICT活用について、教員間で意見交流を行い、授業での効果的なICT活用の推進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習活動への取り組みが活発になり、生徒の態度が積極的になってきた面も見られた。 ・生徒に関する情報を全教員で共有することで、生徒理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、生徒一人一人の特性に応じたきめ細かな指導を心がけていく必要がある。 ・巡回相談等を活用するなど、定期的に専門家からの指導助言をいただく機会が必要である。 ・さらに、授業での効果的なICT活用を推進していく必要がある。 	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は、学力向上に熱心に取り組んでおり、学力調査などから学力が向上していることがわかる。 ・学力の向上に向けて、生徒の実態をみながら、様々な取組を実践されている。自主学習など、家庭とも連携して、さらに良い取組になることを期待している。 ・学力の向上とともに、体力の向上にもよく取り組んでいる。 ・今後も、学力調査の数値だけにとらわれることなく、生徒をひきつけるような、魅力のある授業を目指した授業改善にも期待する。 	4
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、規範意識を養い、落ち着いた雰囲気の中、充実した学校生活を過ごしている。一方で、今年度も校則に対しては、一部の保護者から厳しい意見があるなど、気になる点がある。 ・学校は、学校行事への取組を通して、生徒の心の成長をはかっている。その中で、生徒の自己肯定感も育まれている。 ・計画的にキャリア教育が行われている。生徒が、希望をもって将来の目標を持てるように、さらに取組の充実を期待している。 ・あいさつをしてくれる生徒が多いので、とても気持ちが良い。小学校での取組の良い影響もあるように思う。 	3
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校創立当初から変わらず地域に根差した学校づくりに取り組み、家庭や地域と連携した取組を行っている。 ・校区内の小学校とも、工夫次第で、さらに交流や連携を深めていけると思う。 ・スマホを持つ生徒も多く、大人に見えないところでのSNSトラブルが心配される。学校もルールを守った使用などについて指導し、家庭とも連携して見守る必要がある。 ・コミュニティ・スクールの導入により、さらに地域とともにある学校づくりが進むことを期待する。 ・不登校となっている生徒にもていねいに対応している。さらに、一人一人に寄り添った取組を期待する。 	4
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校はしっかりと目的を持って取り組んでいる。学校の取組を、保護者にも知らせる必要があると考えられる。 ・地震などの災害に備えて、「自分の命は自分で守る」ことができるよう、防災教育を継続してほしい。 ・災害時には地域と連携できるように、避難訓練なども地域と連携するという考えも取り入れながら工夫してはどうか。 ・校区内の安全点検を、地域と連携して実施してはどうか。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では、教職員の皆様の熱心な取組により、生徒、家庭、地域から信頼される学校づくりを進めている。学校の取組を保護者にもわかりやすく示し、さらに充実させることを期待している。 ・教育目標について、地域や保護者に広報し、工夫して周知をすることが必要である。 ・コミュニティ・スクールが導入されたので、教育目標や学校の取組を、さらに地域へと広報するような工夫ができないか。 	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた教職員の努力や情熱は十分に伝わってくる。さらなる工夫・改善に期待している。 ・1人1台のタブレットPCがあるので、授業で活用してほしい。ICTを効果的に活用できるよう、研修や自己研鑽を通して、教員の指導力向上に期待している。 	3
<p>■</p>	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	<p>評価Ⅳ</p>
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B